

# エコたま



# グリーンNEWS

多摩市民環境会議機関紙 第117号(通巻第177号)  
2014年1月23日発行 発行人:清水武志朗 編集人:  
井上ひさかず 〒206-0025 多摩市永山3-9 東永山複  
合施設 301 tel&fax042-376-4572(事務局員は常駐  
しておりません) e-mail qqh43tdd@train.ocn.ne.jp  
URL <http://ecomeetingtama.blog.ocn.ne.jp>

## 諏訪2丁目住宅 盛大に街びらきイベント



諏訪小プラスバンド部の演奏に人垣が、1月19日(日)に「街びらきイベント」が開かれた。諏訪第二公園を主会場に、隣接する諏訪児童館周辺の広い地域で、いろいろな催しが同時に開催された。

主催はBrillia多摩ニュータウン団地管理組合。(共



催:市立諏訪児童館)午後1時30分の「街びらき宣言」のあと、メイン会場では諏訪小学校のプラスバンド部による演奏が行われ、そのうまさに来場者出

店が並び大勢の客も並びはくぎづけ。「漕げよマイケル」など6曲を披露した。

会場を囲むように出店も並び、焼きそばや豚汁などの屋台には、買い求める人の長い列ができていた。500円でクーポン券を買くと、数種類の食べ物やドリンクが買えたり、ヨーヨーすくいや輪投げなどができる仕



組み。そして餅つきも行われ、つかれた餅はあんこにくるんで来場者にふるまわれた。まるでお祭りのような演出だ。

さらに、ミニSLが子どもたちを乗せて走ったり、出前牧場

出前牧場で動物との触れ合いがやってきてポニーやヤギ、ヒツジなどに触れ、ウサギ、ひよこ、モルモットなどと直接、スキンシップできるので、小さい子を連れた来場者には大人気だった。ミニSLも駅員さんなどが本物の制服を着ているなどと思



ったら、協賛する京王電鉄の出張運営だった。

諏訪小プラスバンドのあとは植樹イベントや多摩太鼓の披露なども行われ、ほとんど

が「産直」の出し物でも1日中、来場者をあきさせず盛り上がりを見せた新街区のオープニング・イベントとなった。今後とも、新住民と地域との交流が活発に行われることが期待される。

## 環境学習セミナー・番外編は“省エネ”

今期行われている「環境学習セミナー」はシリーズ6回の予定だったが、1月は開講なしということで急きょ、19日に講座が組まれることになった。テーマは「省エネ」。



講師は多摩市省エネ推進協議会の会員。↑省エネ講座風景

昨年の夏、5月にたま広報で参加をよびかけたモデル家庭10世帯の家電製品に、省エネナビ機器の「ワットチェッカー・プラス」という測定装置を取りつけ、まず最初にいままで通りの生活をしてもらって1週間計測。

つぎにその結果に基づいて省エネアドバイザーが、各家庭の事情に合った省エネの仕方をアドバイスし、その後の1週間を計測した結果を最初の1週間のデータと比較した。

2週目のアドバイスは、たとえば冷蔵庫は「強」から「中」へ、あるいは「中」から「弱」へ。テレビは輝度を低くする「省エネモード」にし、待機電力が流れているので見ない時はリモコンのオフだけではなく、コンセントから抜くなど。エアコンも同様に使わない時はコンセントを抜く。

今回のセミナーはこの内容を分析した結果を受講者に知らせ、それをどう各自の生活に生かすか。そのヒントを提供しようというもの。

結果のグラフでは、アドバイス後に着実に消費電力量が減った家庭もあった反面、あとのほうが消費電力が高くなった家庭もあった。が、これは調査の時期が違って、あとの気候が酷暑になった背景もあったからだという。

またテレビと冷蔵庫でだいたい電力消費の40%程度を占めること。旧型のエアコンと新型のエアコンを使っている家庭で、新型は高齢者の部屋にありほぼ1日つけっ放し、旧型は1日数時間しか使わないのに、消費電力に大きな差がなかったこともわかった。最近の省エネエアコンや省エネ冷蔵庫などの実力はほぼ宣伝どおりのようだ。とくに冷蔵庫は365日稼働させているので、影響が大きくなる。

同協議会が学校に出前授業に行き、子どもたちに考えさせながら、省エネを実践してもらおうとグループで考え、発表してもらったところ、やはり「待機電力」などの無駄を発見したので、さっそく家で両親に報告したことだろう。

受講者からは「自分と家族で省エネの認識が違い、家族の考え方をを変えるのに困っている」とか、「エアコンは家に数台あるが、入居以来、コンセントなどコードが表に出ていず、コンセントの抜きようがない」といった反応があり、さっそく同協議会の省エネ診断士が無料(どのケースも同様)で調べてみることになった。

なお、診断士は「どこそこのなんという家電の性能がいい」などとはいえないそうで、家電の性能一覧の比較は資源エネルギー庁発行の「省エネ」に関するガイドブックを見るとよいといったアドバイスも行われていた。

## 太陽光発電関連「屋根貸しセミナー」開催(下)

### 多摩電力合同会社(たまでん)の場合



たまでんの考える屋根を貸す側の6つのメリットは——

非常時電源を確保できる。災害停電時に太陽光発電を自家使用に切り替え、無料で使える。希望により、有料で電気を

ためておく蓄電池導入の提案も用意する。

大規模改修に柔軟に対応する。雨漏りの原因をつくらず移動可能な工法を採用しているため、大規模改修による屋根防水工事の際、設備の移動復元に要する費用、工事期間中の売電収入の損失(1カ月を限度)は負担する。

社会貢献に寄与する。自然エネルギーを増やすことが循環型エネルギー社会の構築に寄与する。

屋根貸し賃料が得られる。その賃料により管理費の引き下げ、共用部の電気代への充当、共用部電気のLED化などいろいろな用途が考えられる。

契約満了時には発電施設を無償譲渡する。なお、屋根所有者の希望により、引き続き契約を継続するか、社の責任で設備を撤去するなどの選択ができる。

遮熱効果が期待できる。太陽光パネルが日よけの役割を果たすので、最上階の部屋の遮熱効果を高められる。

30問のQ&A集をつくり、貸主の疑問を解消する。

### 株コミュニティネットの場合



高橋英與代表

ゆいま〜る聖ヶ丘や中沢などを運営する同社が「屋根貸し」に取り組んだきっかけは、①企業としての役割は地域の拠点づくり、地域のニーズを受け止めること、②主役は地域であり、そこに住む人たちという発想、③自然エネルギーの活用を模索してきたが、初期投資が大きく、企業として単体で取り組むのは困難だった、④屋根貸しという形態をとることで、太陽光発電が実現するうえ市民と連携することが可能になった。

設置する太陽光発電について、①聖ヶ丘2丁目のゆいま〜る聖ヶ丘3棟で860㎡(A棟屋上330㎡・23.9kW、B棟屋上270㎡・16.4kW、C棟屋上260㎡・16.0kW=計56.4kW)②賃料はパネル設置容量1kWあたり年間1700円。56.4×1700円=9万5800円/年間予想③完成時期2013年12月上旬着工、2014年1月上旬竣工。

屋根貸しによるメリットとしては、①太陽光パネルの設置は環境貢献になる、②エネルギーの地産地消に寄与する地域貢献になる、③地域のNPOや民間企業との連携ができる、④非常用電源としての活用ができる、⑤年間約10万円の賃料収入、⑥自然エネルギーの利活用について、社員と入居者が理解を深めるきっかけとなる。

同社の高橋英與代表は、「太陽光発電をやりたいという



ゆいま〜る聖ヶ丘屋上のパネル気はあったが、自分たちでパネルを購入したり、保守もすると考えたところで、そこからの具体的な思考がストップしていた。だから、多摩電

力から話をもらったときは二つ返事でOKした。ただ多摩電力の経営に不安がなくもない。自分たちも情報公開するので多摩電力さんもぜひ情報公開をしてほしい」とクギを刺していた。

↑ゆいま〜る聖ヶ丘

(写真協力:多摩電力合同会社/市環境部環境政策課)



## さえずりの森で「山始式」行う

1月18日(土)はさえずりの森の今年最初の保全活動日。予定された午前9時30分には10名ほどの会員が集まり、林内のヤマザクラのご神木の前で今年1年の活動の無事を祈念する「山始式」が行われた。



ご神木に向かって頭を下げる

保全作業で使う道具類を神木の前に並べ、2本の竹に御幣を飾り、お神酒や米を並べて山の神に祈りを捧げた。そして捧げたお神酒を湯飲み茶碗に入れて、一人ひとり飲み過ぎないように(!)回し飲み。

このあと、林内を回ってごみを拾ったり、点検をしたり。最後にほおのき沢のばあそぶが咲く一帯の笹刈りを行った。一帯を覆っていたほお(朴)の大きな枯れ葉も始末し、風景がすっきりとして明るくなった。市役所の公園緑地課からもスタッフ1名が応援に駆けつけてくれ、一緒になって落ち葉の始末などを行ってくれた。

ちょうど作業を終え、入り口広場に戻ったところ、近くの永山団地に住む母子が遊びにきていたので、一緒に記念撮影を行ったのちに解散した。



近所の母子と一緒に記念撮影

## 連光寺小学校で「どんと焼き」

連光寺・聖ヶ丘地区青少協主催の賽の神・どんと焼きが1月12日(日)に連光寺小学校のグラウンドで行われた。



子どもたちや保護者など500人ほどが集まり、竹を柱に大小の賽の神に向けて神職のりとをふたつのやぐらが建てられ、まず神職(聖ヶ丘商店街の店主)がのりとをあげ、周辺を清めたあと、太陽の光をレンズに集光させて火をおこし、同小の校長先生や代表の子どもたちがその火から分けた火で賽の神に点火。



→太陽光をレンズで集光し火をおこす

火は勢いよく燃え上がったが、これがほとんど消えて置き火のような状態になるまで、長い竹の棒に刺した白玉を焼くことはできない。消防隊員が「OK」のサインを出したあとは、みんな一斉に丸く置き火になった賽の神のあとに殺到、白玉をかざして焼き始めた。



クライマックスの風景